



北鎌倉台峯トラスト 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

北鎌倉だより

会報

2013年12月 NO.29



(昭和37年頃の台峯、『心のふるさと—北鎌倉学園二〇年史』より)

なださんの遺志を継ぐ

目次

「なださんを偲ぶ山歩き」	2	総会報告	9
台峯の整備計画(実施設計)を前に	3	随筆「台峯・ふるさと」	9
都市計画道路・藤源治 最近の動き	5	台峯の周辺 歴史つれづれ	10
活動報告	6	活動記録・伝言板ほか	11
会計報告	8	最近の台峯	12

.....
「なださんを偲ぶ山歩き」
.....



「なださんを偲ぶ山歩き」が11月17日(日)開催されました。これ以上はない晴天にめぐまれ、しかも通常の山歩きを上回る45名もの参加者を得たのです。会場の山之内公会堂にはお元気な頃のなださんと会員達が台峯に集う写真パネルが展示され、皆さん感慨深げに見入っていました。

会はず黙とうで始まり、次いで当基金の出口理事長よりなださんとの出会い、そして台峯保全の精神をこれからも受け継いでいく決意がのべられました。

続いて久保理事から、なださんは不得手な山登りに敢えて挑戦し、台峯の貴重な自然を参加者と共有したかったのではないかとの感想を披歴されたのです。開発反対運動にありがちな相手企業との交渉や戦い方を議論するより、むしろ多くの人々が台峯を散策することによって身近な自然が残されていることの有難味を実感するほうが、より説得力があると判断されたのでしょとのこと。

また「みどりショップの会」代表の前田陽子さんは、朝の弱い自分はあまり参

加できなかったが、台峯に行く事は楽しい思い出でした、と話されました。



その後会場を出て山を歩き、午後0時8分に無事終了、解散した次第です。

2004年に開発中止・全面保全が決定された後も、この運動の結果、山歩きは181回を記録、参加人員は延べ4,000名近くに達し今日に至りました。

この台峯山歩きを通じて参加される方々は其々様々な動機により参集されていると思われます。一時の気分転換に、足腰を鍛えるため、皆さんとの触れ合いの場として、台峯とはどんな処か知りたい、など。中にはどのような動植物が生息しているのか、台峯の生態系に関心のある方もいらっしゃるかも知れません。残念ながら後者は少数派です。

この基金としては、台峯に生息している動植物の実態と今後の環境の変化に関心を持っています。その為に毎月、山道の整備とモニタリングを実施していますが、台峯観察を継続することによって魅力ある里山、自然に近い環境を守っていきたいと考えているからです。

皆様のこの方面でのご協力を切に願っております。

小田原 茂夫

台峯の整備計画（実施設計）を前に

順調に行けば、整備計画(実施設計)に1年、整備工事2年、あと3年と少しで開園が予定されていますが、まだ整備計画について話し合いが始まっていません。

整備計画では、基本設計で決まった散策路の整備や池の浚渫と改修、管理棟などについて、具体的な設計や工法が決定されます。また、開園後の保全作業など管理運営の在り方も決められますが、これらは、試行作業とモニタリングで得られた知見を基に討議されることになるでしょう。以下私見を述べます。

整備計画で難航が予想される事

“谷戸の池”の保全と散策路や湿地の両立が最大の課題である。池の生物や水質保全のため長年堆積したヘドロを除去することが不可欠で、水抜きなど定期的管理を可能とすべく堤防改修が必要になってくる。工事用の重い機材を“谷戸の池”まで搬入するのに基本設計では湿地に仮設路を作る提案がなされているが、自然へのダメージと景観の変容は避けられぬ。さらに、散策路の拡幅や開設(基本設計で決定済み)など整備の在り方を実施設計で再検討することになる。

今まで分かってきた事

池

目的:水質の維持と土砂の堆積防止、貝類など希少な生物の保全。

現状:ヘドロ堆積による水質悪化の傾向、土砂の堆積、ハスの繁茂(持ち込み?)外来生物の侵入と在来生物の減少。

試行作業:水質悪化防止のため水位の調節による酸素の取り込み(当会は非関与)、湿地からの土砂流入防止のための畦作り。

モニタリング:水質調査(鎌倉市)、生物調査

(数年前に実施)。

課題:ハスや外来生物への対応、土砂堆やヘドロの堆積をどうするか?

水路

目的:ゲンジボタル、マシジミ(貝類)、トンボ類、ホトケドジョウなど水路の生物の保全、川底の浸食の対策も必要?

現状:流速が早い場所では砂、緩やかな場所では泥が堆積している。下流部の流速が早い場所では浸食が進み岩盤が露出している。川底の状態が生物相が異なる。ゲンジボタルは流速が緩やかな地点に多い傾向がある。マシジミは砂底、ホトケドジョウは泥底を好む。

試行作業:当会は一部関与しているが、土嚢を使って浸食防止を試みている。その結果、浸食防止に成功し、ホトケドジョウの生息環境が生まれたが、一部で貝類(マシジミ)が減っている。モニタリング:水量調査(3地点)。水質調査。ゲンジボタルやマシジミの分布調査、水路の貝類や生物調査。

課題:基本設計では川底の浸食の対策として落差工(数か所に堰を作る)設置が予定されているが、川底に泥が堆積するため、特定の生物(マシジミなど)には悪影響がある。また昔から浸食が進んでいるので、あえて浸食防止をする必要が無いという意見もある。

散策路

目的:多様な野草や樹木の保全。現状:ササやアオキに限定して草を刈っているので、ツル草や草刈りに弱い野草も残っている。

試行作業:手作業によるササやアオキの草刈り
モニタリング:貴重種、草刈りに弱い野草の位置や量の記録。

課題:人が通れる道幅は確保されているが拡幅が予定されている。その際、生育場所を失う野草が出るため、道沿いだけでなく斜面のササを刈り野草の生育場所を確保する必

要がある。また希少種や持ち去られる可能性がある植物は苗の確保が必要。

畑跡地(通称、老人の畑など)

目的:農作物は作れないが、畑と草地の環境を維持する。台峯産の野草や樹木を増やす。

モニタリング:植物調査(種類と量)、バッタ、コオロギ調査(種類と数)

試行作業:草刈り、苗木、野草苗の育成植えつけ、畑の草取りと耕し

現状:コオロギ類が減る傾向がある。マツムシの数は変動があるが、分布が広がり始めている。ススキ、チガヤ草原は健在。

課題:畑跡地の管理が他にも2か所予定されている。草刈りだけでなく、畑を耕すことも必要で、野草や樹木苗(絶滅しそうな台峯の自生種)の苗を増やすことが必要

オギ原(やや乾燥した湿地)

目的:オギ原の存続とカヤネズミの生息地や野鳥の餌場の保全。現状:カナムグラの駆除の成果が出ている。冬季のササの根切りと、枯れたオギの刈り込みで、乾燥化によるササの侵入やオギ原の衰退を食い止めつつある。市内ではカヤネズミ(神奈川県では激減している)の最も安定した生息地であり、カヤネズミ保護のためササの密生地を部分的に残す配慮がいるようだ。

モニタリング:カヤネズミの巣の個数調査、オギ原内の植物分布調査など。

試行作業:カナムグラ、ササの除去と枯れたオギの刈り込み。

課題:今までの試行作業で今後の保全の方向性が見えてきたが、作業とカヤネズミの巣の増減の関係がまだ不明瞭。

ミゾソバやアシの生える湿地(長靴必携)

目的:ミゾソバやアシ原の存続。湿地内の水たまりや水路の保全によるカエルやヘイケボタル、ホトケドジョウの保護。

現状:ミゾソバやツルフネソウなど湿地の植物は健在だが、アシが減る傾向。ヘイケボタルの生息地やカエルの産卵場所は局限。

試行作業:湿地内の水たまりの確保。セイタカアワダチソウなど外来種の除去作業。

モニタリング:湿内の植物分布調査、地下水位(鎌倉市)、雨量調査(鎌倉市)。ヘイケボタルの数と分布調査。カエルの産卵調査。

課題:ミゾソバは健在だがアシが減少、その原因として湿地の乾燥化よりも、斜面の木が大きく育ったことによる日照不足があると思われる。

ハンノキ林

目的:ハンノキ林の存続と後継樹の育成。

現状:後継になる若木が育っていないがハンノキは元気。

モニタリング:ハンノキ毎木調査(一本ごとの位置と太さ、樹勢の記録)。

試行作業:苗木の育成と植えつけ。

課題:湿地を乾かした方がハンノキ林に良いかどうかは意見が分かれている。斜面の木を切った地点ではハンノキが元気になる兆しがある。

森林

目的:場所ごと(ゾーニング)に管理の仕方を変える。雑木林の手入れを行う部分と保全を主とする部分のメリハリをつける。

現状:落葉樹の下から常緑樹が育ちつつある。下草のアオキやササが繁茂し、森が暗くなっているので、植物の種類が減っている。

試行作業:最近、一部で手入れ作業が行われた(当会は非関与)。

モニタリング:雑木林の手入れでは除去の対象になるフジやミズキなども、ある程度は残す必要があるので調査。

課題:手入れ前後の植物調査が必要。木を切った跡地で急増するカラスザンショウなど、特定の樹木や帰化植物の侵入(ダンドボロギクなど)への対応が必要。久保廣晃

都市計画道路(由比ガ浜・関谷線)の
現状と今後の動き

昨年秋の「会員の集い」で「都市計画道路の見直し作業」が粛々と進められていることとお話しました。会報28号(2013年3月)に関連記事をのせております。今回は今までの動きを時系列的にまとめた上で、今後の動きについて展望してみたいと思います。

1) 今までの動き(2012年以降)

2007年	国・県の指示を受け「鎌倉市都市計画道路の見直しの基本的な考え方」策定
2012年8月	都市計画道路見直し方針(中間報告)策定・第1回市民の意見公募(パブリックコメント)
10月	都市計画審議会開催
12月	第2回市民意見公募
2013年1月	都市計画審議会開催
4月	第3回市民意見公募
5月	都市計画審議会開催

註:この段階では「由比ガ浜・関谷線」(B区間)の見直し結果の総合判定は「保留」となっている

2) 今後の動向

6月以降、鎌倉市は「都市計画道路見直し方針案」を都市計画審議会に諮問しました。その後上記委員会からの答申を受け「都市計画道路見直し方針」として確定しています(8月)。「保留」とされたB区間(台峯を縦断する)に対する説明は次の通りです。

「今後の状況を見ながら都市マスタープランや交通マスタープランの改定、次回の見直し等において代替ルートの検討も含め、広く市民意見を聞きながら再検証を行うこととしたい」

つまり鎌倉市内の都市計画道路の見直

しは終了し「由比ガ浜・関谷線」のみが「先送り」となったわけです。ご存知の通り「世界文化遺産登録」の不登録(5月)もマイナスに影響しているかもしれません。「都市マスタープランの見直し」が10月から始まりました。基金では「プラン」の評価検討委員として参画しましたので、基金の意見をプランに反映するよう努力していきたいと思っています。

望月真樹

藤源治緑地開発現況報告

台峯を傷つける表記開発に対して、2011年8、9月当基金は緑地保全を求める要望書を市長ほかに提出した結果、建設常任委員会では今後を見守るとして継続審議となりました。後に業者により開発計画は変更されましたが、全敷地数千平米の内、当面の1千平米だけでなく、その後も開発を続ける意図がはっきりしてきたので、当基金は翌12年2月8日に市会議長宛の陳情書(地区の自然環境調査と保全緊急性の正当評価を求める)を提出し、久保理事が同委員会で陳述しました。(以上、本誌27号まで参照)

その後、市が計画地の一部買取を決定したものの、残り部分の開発につき業者による説明会が去る10月22日開催されたので、小生も出席した次第です。その結果、当開発は大規模開発(法の網)逃れの連鎖開発と判断され、大変残念でなりません。生前なだ先生の危惧された事がまた現実となってしまいました。連鎖開発を止める方策は今後後世への我々の課題として、特に市も巻き込む形で、運動していきたいと思っています。

出口克浩

.....

活 動 報 告

.....

1. 山歩き

望月昌夫

2012年8月迄は既に報告していますので、今回はそれ以降今年11月迄報告します。

11月17日に開催された「なださんを偲ぶ山歩き」の会で181回となります。約15年間ほぼ同じコースを歩いていますが、毎回のように新しい発見に驚かされます。結果は都度市役所にも詳しく報告しています。今回は抜粋のみで、-実施日、コメント、自然観察の順です。

- 9/16 途中より雨、全員ずぶ濡れ。雨にぬれ頭を垂れるミズヒキ、タデも趣き有り。台峯で今見ることが出来る野草:ツルボ、センニンソウ、ダイコンソウ、ハナタデ、キンミツヒキ、シロバナサ
- 11/18 いつも支援を頂いている「みどりショップ」関係の方々が参加。晩秋の紅葉の観察と野鳥の観察。紅葉:イヌビワ、ヤマハッカ、ハダカホウズキ、野鳥:シジュウカラ、ホオジロ、ウソ、アオジ、カワラヒワ
- 1/20 1/14に13年振りの大雪。その後遺症で散策路は大荒れ状態。野鳥が多く至近距離で長時間観察。ウソ、モズ、カシラダカ、ホオジロ、ツグミ等
- 3/17 3/15に北鎌倉女子学園生徒70名を課外学習の一環として案内。3/14頃から4月初旬の晴天が続き台峯は一気に春本番。圧巻はヒキガエルの産卵現場に遭遇した事です。私達が造った池での賑やかな産卵は感動的でした。早春に咲く花:ウグイスカグラ、キブシ、ヒメウズ、ヤマネコノメソウ 野鳥も北へ帰るヒヨドリの群れ、

ホオジロ、カシラダカ、モズ、ウグイス等大変賑やかでした。

- 5/19 ウツギを観察している時にホトトギスが上空を鳴きながら飛んでゆきました。キビタキの澄んだ声が印象に残りました。5月に目立つ花:マルバウツギ、ハコネウツギ、ノイバラ、ウツギ、エゴノキ
- 7/21 6/22、7/13のホタル観察会の報告。6月源氏ボタル150~170とここ数年で最多。7月源氏30~40、平家100は見事。7月に咲く台の花:ネムノキ、カラスザンショ、ヤブガラシ、コヒルガオ、セリ、ハンゲショウ、ハエドクソウ、ムラサキニガナ
- 9/15 台風の影響で中止。
- 11/17 「なださんを偲ぶ山歩き」として開催。45名の参加。なださんの存在の大きさを実感。晩秋の台峯のやや遅れ気味の紅葉:ハゼノキ、ヤマグワ、アカメガシワ実ハダカホウズキ、スズメウリ、マユミ、ノイバラ、ノブドウ、ムラサキシキブ、野鳥:シジュウカラ、ヤマガラ、コゲラ、アオジ

2. 山の手入れ

望月眞樹

夏の山道整備は「やりがい」がある

7月12日山梨県の甲府では4日連続で39度を超えました。8月に入ると、10日には各地で40度を超え、10月に入っても12日に「真夏日」を記録しました。

この季節の「山道整備」は、結構やりがいがあります。まず作業環境が劣悪なことです。日差しが強く「日よけ対策」が欠かせません。高温、高湿度で、手ぬぐいはすぐに汗でグショリ。そして蚊の襲来です。「携帯用蚊取り機」が必携です。

次に夏草などの成長の速さです。作業後1カ月もたたないうちに作業の痕跡は

跡かたもなく消えてしまいます。それにもめげず「熱中症」を気かけながらコツコツと手作業を続けるのです。

作業後、木陰でひんやりした風に遭遇した時、自然からのめぐみを感じます。「翌日に基金が主催するウォーキングに参加する方々が安心・安全に歩いてほしい」との思いからです。



そんな今年の夏、台峯のシンボリック存在でもある「ため池」(谷戸の池と呼んでいます)に異変が生じました。池の半分(800平方メートル)ほどが「ハス(蓮)」に覆われてしまいました(写真上)。記憶をたどっても過去15年位はハスが存在した姿を見たことがありません。2年ほど前の夏、池の中央付近に蓮の葉とおぼしきものが数枚水面に浮いていました。昨年は明らかに蓮の形をした葉が数十枚確認されました。「なぜ谷戸の池に?・・・」蓮は粘質土壌が適地とされ高温、陽光を好み水切れや陰地を嫌うようです。台峯は蓮にとって適地なのです。

次に11月の写真をご覧ください。(写真右上)ハスの花はきれいですが、枯れた大きな葉やハスの実はしばらく水面上に残りますがそのうち池の底に沈殿します。ハスの地下茎(食用にもなる)は太く縦横に伸び池の底にはびこります。他の沈水植物壊滅的影響を与え、枯れ死の

際、一気に栄養塩を拡散させ水質の悪化につながると言われています。それだけでなくも近年谷戸の池は上流からの流出した土石が堆積し水深が浅くなって市に対策を要望しているのですから。



3. モニタリングの報告とお誘い

久保廣晃

台峯のモニタリングとは観察会ではなく、保全作業の是非を予測し確認するためです。一般的な生物の分布変化や数の増減を長期間見届けることに力を入れていますので、専門的な知識は必要ありません。例えば、開園前に予想される散策路の整備に備え、散策路沿いの野草を調べたり、オギ原の手入れ後にオギが元気になっている様子を確認しています。

モニタリングをすると、自分が草を刈った場所からスミレが芽生えるのを発見したり、楽しみながら山の手入れが出来ます。自然に興味がある人なら誰でも出来る内容ですので、台峯の保全作業に関わる人はぜひ参加してください。特にお奨めは、第三日曜日の前日の土曜日、山の手入れの前に実施するモニタリングです。散策路の手入れをする前に、どんな植物があるのか見てみましょう。翌日の台峯歩きで観察する生物の予習もできます。人手不足ですのでぜひご参加ください。

会計報告

(2012年4月1日より2013年3月31日まで)

特定非営利活動法人 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

(単位:円)

科 目		金 額	摘 要
収 入	正会員会費収入	75,000	@3,000円
	個人会員会費収入	259,000	普通会員@2,000円、家族会員@500円
	団体会員会費収入	9,000	@3,000円
	機関紙収入	2,500	@500円
	カレンダー収入	313,280	343冊
	民間助成金収入	330,920	みどりショップ他12件
	寄付金収入	120,500	10件
	受取利息	214	預金利息
	その他	4,482	保険料戻し他
収入計		1,114,896	
支 出	(緑地保全・管理事業)		
	整備作業費	16,252	道具購入および研磨費用
	賃借料	12,000	道具小屋借地料
	損害保険料	3,900	
	雑費	4,010	
	小 計	36,162	
	(普及・研修事業費)		
	通信運搬費	27,945	
	印刷製本費	225,990	カレンダー、会報、山歩きチラシ印刷
	編集費	50,000	カレンダーデザイン
	事務消耗品費	11,135	
	賃借料	52,000	山歩き会場使用料
	損害保険料	3,900	
	雑費	19,365	
	小 計	390,335	
(広報・出版事業費)			
通信運搬費	20,822	ホームページ回線使用料	
印刷製本費	15,700	しおり印刷	
広告宣伝費	30,000	鎌倉朝日広告掲載料	
小 計	66,522		
(交流・協力事業費)			
負担金	3,000	鎌倉NPOセンター年会費	
事務消耗品費			
小 計	3,000		
(管理費)			
通信運搬費	13,340	会費入金費用	
事務消耗品費	6,225		
賃借料	30,000	公会堂使用料	
雑費	4,245		
小 計	53,810		
支出計		549,829	
収支差額		565,067	
保 有 資 産	現金	145,849	
	当座預金	1,787,186	郵貯
	普通預金	939,957	郵貯¥17,735 / 三東U¥922,222
	定期預金	288,252	郵貯¥239,181 / 三東U¥49,071
計			
正味財産		3,161,244	

監事の林雄一郎先生より、適正との監査報告書を頂戴しております。

.....

総 会 報 告

.....

6月30日(日)10時から山ノ内公会堂にて第12期事業年度通常総会が開催されました。

会員の提案により、まず なた氏の逝去を悼み全員で黙祷を捧げました。

続いて審議に入り、第1号議案の昨年度活動報告書・収支計算書・貸借対照表・財産目録の承認、第2号議案の今年度事業計画・収支決算書の承認の2つが一部修正のうえ賛成多数で可決されたのです。

ほかに会員から台峯の管理方法等についての質問があり、当基金としては基本設計に基づいて定められるものであって、台峯を取り巻く環境が昔と異なる以上はかつてと全く同じとはならないと考える、などと久保理事から説明いたしました。

.....

随筆 台峯・ふるさと

.....

磯田光一という文芸評論家がありました。大分前に、五十代の若さで亡くなり、今は鎌倉の浄智寺に眠っています。

彼が草深い飛驒の山村を故郷にもち、そこから上京して暮らす滝井孝作と、東京のど真中で生まれ育った評論家の小林秀雄との風景に対する感じ方の違いを枕にして、「故郷論」という論文を書いたことがあります。これからはコンクリートの五階建が並ぶ場所

を、好むと好まざるとに関わらず故郷にする世代がふえていくのだ、と。ちょうど東京をはじめとして、全国にいわゆる団地が続々ふえていった時代でした。彼の論はそこから日本の近代文学と故郷の問題に発展していくのですが、それは今省きます。

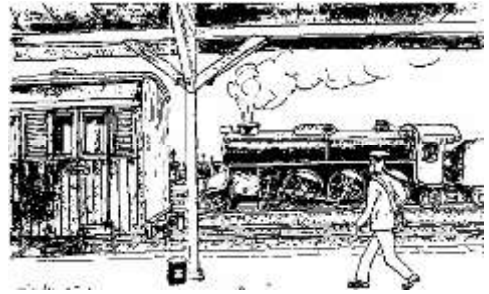
ただ、それを読んだとき、土の匂い、原っぱや草叢やそこに跳ねる虫たちというのは、人間の感性と関係はないのだろうかと思った記憶があります。今は五階どころか数十階の高層マンションが大都市には林立しています。磯田の論文を読んだ時に漠然と感じた疑問をその後深く追求したわけではありません。

ただ、ご縁があって台峯を歩くようになり、たとえば今の季節、時に真っ青な空をかすめて飛ぶ小鳥の鋭い鳴き声を聞き、枯落葉を踏みしめて歩く時、昔の感想がふと頭をよぎることがあります。みなさんはどう思われるでしょうか。

現在では人の感性と自然環境の間に介在するのは、コンクリートどころか、ネットだの、スマホだの、無限に発展するIT機器なのかもしれません。それでも、いいえ、それだからこそ、今は周辺の子もたちが台峯で泥んこになって遊び、それは幸せなことだったのだと成長した後も、心の片隅にその記憶を留めていてほしいなと思うばかりです。何しろ台峯どころではない山や森、田や畠の緑に恵まれた故郷をもちながら、もしかすると二度そこには戻れないかもしれない子どもたちが沢山いるのですから。

和泉あき

台峯の周辺 - 歴史つれづれ -



<西山少年画く、同書表紙より>

かつての建長寺や円覚寺では修学旅行の学生服姿が目についたものが、最近は服装が自由なのか、大勢の観光客が年中いるためか、余り目立たぬ。戦前の鎌倉は夏の避暑客以外は修学旅行生と決まっていたようで、たとえば「八月も終わりになって、海に土用波が立ち、、鎌倉の街の辻も道路も人数少なく森閑として、、やがて天気が定まって秋の修学旅行の学生が入ってくる」(大佛次郎「鎌倉案内-昔と今と-」)

大正 15 年春の 5 月 6 日 06:13、藤沢駅に着いたのは、大阪府立豊中中学校 5 年の約 100 名である。その一人、西山少年によれば「ホームを出ると砂地に四角いマッチ箱のような電車が二両連結で止まっていた。」この江ノ電に乗って江の島、大仏を訪れ、さらに八幡宮、鎌倉宮に参拝して感じたのは、「行き交う人々の姿にどこか大阪の街と違うアカ抜けしている、、外国人も時々見受ける。」というものだった。帰りの横須賀線鎌倉駅でも「プラットホームは明るく感じが良い。やはり西洋人が目につく。」

このあと一行は東京に向かうが、当時の関西と較べると「沿線に見かける建物はトタン屋根のバラックが多い。まだ震災後二年余りしかたたず、みすぼらしさは隠せない。」と観察しているのは流石というべきか。西山少年とは、のちに住宅問題を研究し、「住み方の記」などで知られた建築学者西山卯三の若き姿であった。(『大正の中学生』)

その 2 年余り前、大正 12 年秋の 9 月 1 日 11:50 横須賀駅に着いた列車からは、静岡高等女学校の約 50 名が降りてきた。駅前の見晴山下で弁当を使い始めた途端、大きな揺れが生じ、教員、生徒全員が崩れてきた岩の下敷きとなってしまった。関東大震災である。傘を忘れて駅に戻った一人だけが生き残ったという。修学旅行史上最大級の惨事ではなからうか。

一行がどういう旅程をたどったのか審らかではないのだが、軍港の横須賀は当時鎌倉・江の島と併せて修学旅行先とされることが多かったようだ。例えば、大正元年奈良女子高等師範は建長・円覚寺など鎌倉を観光あと、横須賀に向かっている。

静岡高女が先に鎌倉に寄ったのか、それとも軍艦を見たあとで寄るつもりだったのか、まして分らない。しかし、わずか 10 代半ばで亡くなった彼女らを思うと、せめて楽しい思い出が少しでも多く生前に作れたことを祈る。大仏を見物したり、建長・円覚寺を訪れて習ったばかりの英語を境内の西洋人で試したりしていたら、と願うのである。

本田隆史

活動記録 (2013年3月~11月)

伝言板

- 1 「なださんを偲ぶ会」出席 7 / 11
- 2 都市計画道路・意見票市あて提出 4 / 9
- 3 市都市計画審議会出席 7 / 30
- 4 都市マスタープラン評価検討委員会出席 10 / 30
- 5 藤源治造成計画説明会出席 10 / 22
- 6 総会 6 / 30
- 7 理事会 3 / 3, 4 / 7, 5 / 5, 6 / 2・30,
7 / 7, 8 / 4, 9 / 1, 10 / 6, 11 / 3
- 8 台峯を歩く 3 / 17, 4 / 21, 5 / 19,
6 / 16, 7 / 21, 8 / 18(鎌高生受入),
9 / 15, 10 / 20, 11 / 17(なださんを偲ぶ)
- 9 山の手入れ 3 / 16, 4 / 20, 5 / 18,
6 / 15, 7 / 20, 8 / 17, 10 / 19, 11 / 16
- 10 モニタリング 3 / 3・14, 4 / 20,
5 / 5・18, 6 / 2・15, 7 / 7・20,
8 / 4・17, 9 / 1, 10 / 6・19, 11 / 16
- 11 オギ原 手入れ+モニタリング 6 / 14・28,
7 / 12・26, 8 / 9・23, 9 / 13・27,
10 / 11・25, 11 / 8, 11 / 22
- 12 台峯保全連絡会 3 / 28, 4 / 25
- 13 市との現地視察 3 / 21, 4 / 23
- 14 ホタル観察会 6 / 22
- 15 マツムシを聴く会 9 / 22
- 16 北鎌倉女子学園生徒の案内 3 / 15
- 17 「みどりショップ」総会出席 6 / 19
- 18 当基金乗改訂 10 / 未
- 19 NPOフェスティバル参加 5 / 7~9

編集後記

埼玉から来た友人に「この台峯の緑はずっと三浦半島の先まで続いているんだよ」と教えてあげると、「秩父鉄道が京急と相互乗入れしてくれば楽なんだが」と言うので、「ダメ、ダメ、それじゃあ、「三崎口行」と「三峰口行」とになって、紛らわしい。」
どうぞ、よいお年をお迎えください。

1 カレンダー

例年同様、台峯のカレンダーを頒価¥1,000 で販売しています。

今回も会員の池英夫さんが写真を提供してください、美しいカレンダーが出来上がりました。天敵の鳥と昆虫とがいわば呉越同舟で協力し、毎月交替で台峯から皆様にご挨拶します。

お求めは鎌倉の島森、大里、たらばの各書店か、山ノ内あらいやまで。大船方面では書店がなくなりご迷惑をおかけしておりますが、ゆうちょ銀行の振替払込サービスで注文いただければ、郵送いたします。(頒価および郵送料の計¥1,270 / 部)

- 口座番号:00250-2-20454
- 加入者名:北鎌倉の景観を後世に伝える基金
- 通信欄・ご依頼人:部数、送付先など必要に応じてご記入ください。

2. 「会員の集い」(速報)

本誌発行日直前の12月8日(日)13:30から台峯の麓にある光照寺にて恒例の「会員の集い」が総計20数名の方のご参加を得て、開かれました。

まず出口理事長がご挨拶を申し上げ、続いて毎年多額の助成金を頂戴するなどご支援を頂いている「みどりショップ」の前田陽子代表から来賓としてのご挨拶をいただいた次第です。

次に、台峯の整備計画(実施設計)を久保理事が、都市計画道路につき望月眞樹理事が、藤源治開発については出口理事長が、それぞれ説明・報告いたしました。その内容は概略本号に掲載された文章と同様です。

最後は会場の皆様とのフリートーキングで、活発な、様々な内容の意見表明があり、理事一同大いに触発・啓発されたというわけです。

こうして、当初予定時刻の15:30を多少過ぎて、名残を惜しみつつ閉会いたしました。

現在の台峯



表紙に約 50 年前の懐かしい写真を北鎌倉女子学園のご厚意により転載した。この紙を押し開いて左右、今昔を見比べていただくと、樹木は左の現在の方が繁茂しているようであるが。

撮影時期に関して左は右の表紙ほど季節が進んでおらず冬枯れしていないのは確かだが、半世紀の間に、開発から免れた野や畑が放置されて樹林となり、中でも常緑の広葉樹やタケ・ササ類などが増えたこともあるだろう。

また、以前の撮影場所と思しき地点は現在藪

に覆われ見通しが利かない。地上数mの高さから闇雲に撮影した動画の静止映像が下左の写真である。眼前に大木が迫っており、自動焦点も手前に定まって分りにくいものの、写真右下隅の赤い屋根などからほぼ同位置と推測される。

今では絶好の撮影ポイントとはとても言えないが、ここでも緑に大きな変遷が見られるということであろう。こちらの季節は右の表紙とほぼ同じかと思われるが、動画中を探しても遠景の台峯に昭和 30 年代のような広い枯野は見いだせない。

会報 29 号

発行日 2013 年 12 月 10 日

発行者 特定非営利活動法人

北鎌倉の景観を後世に伝える基金

事務局 〒247-0062 鎌倉市山ノ内 704-9

(和泉方) Phone: 0467-47-9892

HP www.kitakamakura-daimine-trust.org

写真 小田原茂夫・北鎌倉女子学園・望月眞樹・本田隆史

